

2. 未婚者が希望する結婚後の家計管理方法——「拋出」から「扶養」へ？

結婚後も仕事は続けたいけど、あてにするのは夫の収入？

「消費生活に関するパネル調査」では、「どのようなやり方で家計を管理しているか」を継続的に調査している。ここでは、20歳代後半の未婚女性を対象に、「将来結婚したらどのような家計管理の方法を希望するか」をたずねた結果を、1993年・1997年・2003年・2008年の4時点で比較した。なお家計管理方法は、以下の7つのタイプから選んでもらう形でたずねた（図表2-1）。

図表2-1 家計管理方法の7つのタイプ

片働き型 (2タイプ)	手当タイプ	夫だけが働き、夫の収入の一部は共通の財布へ、残りは夫が管理
	委任タイプ	夫だけが働き、夫の収入を全て妻が管理
共働き型 (5タイプ)	一体タイプ	夫婦共に働き、双方の収入を全て共通の財布に納め、妻が財布を管理
	扶養タイプ	夫婦共に働き、夫の収入は共通の財布へ、妻の収入は妻の財布へ
	拋出タイプ	夫婦共に働き、収入の一部を拋出し合い、残りは各自の財布へ
	支出分担タイプ	夫婦共に働き、共同生活に必要な費用以外は、全て自己管理
	夫管理タイプ	夫婦共に働き、妻の収入は共通の財布へ、夫の収入は夫が管理

図表2-2に示すように、いずれの時点においても、共働き型の1つである「一体タイプ」が最も多くなっている。次に多かったのは、同じく共働き型の「拋出タイプ」である。

しかし、「拋出タイプ」を選ぶ女性は徐々に減っており、代わって増えているのは「扶養タイプ」（共働き型のうち、夫は自分の収入を共通の財布に拋出するが、妻はいっさい拋出しない）である。若い世代の女性ほど、結婚後も仕事を続けるとしても、基本的に夫の収入に頼りたい（頼らざるをえない）という意識が強まっていることがうかがえる。

図表2-2 未婚女性が希望する結婚後の家計管理方法

